

---

# 王子の涙

青羽翔

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

王子の涙

### 【Nコード】

N6143B

### 【作者名】

青羽翔

### 【あらすじ】

古くからの因縁関係であったバルスとアリアスの国に、ついに戦争が始まった。バルスの王宮に仕える侍女のクレアの故郷は、アリアスであった。そこには彼女の想い人、ジェイルがいる。そんなこととは知らず、バルスの王子ラスティは……。仮想世界仮想国の王室恋愛小説。コメディとは程遠い、悲劇ものです。

## Prologue

引越し!?

うん……

ほう、まだ若いのに……。ラスティとお似合いじゃないか

僕の妃になってくれないか……?

ジェイルが……

父上! 戦争は終わらせることはできないのですか!?  
何を言っ!

もう、お前は自由だ……

最後に………できて、私は幸せです………

父上!!

………責任は自分の手で………

## 第0幕 始まりの花畑

『引越し?』

ジェイルは驚いたように叫び、花畑から顔をあげた。

『うん、明後日』

クレアはどこか悲しげな微笑を浮かべていた。

『“バルス”ってどこに行くんだって』

『バルスっていったら……』

とここまで言つて、ジェイルは急に口を閉ざした。

『何? バルスがどうしたの?』

『いや、なんでもないんだ』

ジェイルは深く考え込んでいた。バルス? バルスだと?なんで

よりにゆつてそんなところへ!

バルスという国は、ここから山を二つも越えたところにあり、昔からこの国アリアスと因縁深い確執があるのだ。そして近日アリアスの兵士達の間では、二国間の戦争が近いらしい、などと噂されていた。

バルスとアリアスはもとは一つの国だったので人種的な差別はない。二国に分裂してしまった理由は、国内の二つの大きな権力者が対立してしまつたからだという。そこまで考えて、クレアの心配そうな顔がこちらの顔をのぞきこんでいるのに気付कि、ジェイルははつと我にかへつた。

『どうしたの? バルスって国、そんなに危ないところなの?』

『いや、なんでもないんだ』

ジェイルは同じ言葉を繰り返した。

若き兵士ジェイルは、このことをクレアに言いたくなくかつた。彼女にこんなことを言つても余計に心配をさせるだけだし、何より今そのことを実際に口に出してしまつたら本当のことになつてしまい、それで彼女ともう会えなくなつてしまふと思つたからだつた。

『バルスつて国、ここからどれぐらい遠いの？　もう会えなくなっちゃうのかな』

彼女は顔をあげずに、手元の白い花を見たまま言った。

『大丈夫だよ。どこにいたって、二人が会いたいと思えば会えるんだよ』

それから少し口をつぐんでいたが、やがて唐突に口を開いた。

『愛しているよ、クレア』

言ってから、彼は少し顔を赤らめた。

『私も愛しているわ、ジェイル』

二人は見つめあった。しかし、クレアの表情はとても悲しげだった。

『怖いかい、引越しが』

『うん、でも怖いつていうより、心配なのよ』

『何が心配なんだい？　向こうの生活のことかい？』

『それもあるわ。故郷からの旅立ち、友人や……あなたとの別れ、向こうでの新しい生活、向こうの人達との付き合い、なにもかも心配なのよ、ジェイル。そして何より……』

クレアは顔を上げて、ジェイルを見つめた。

『あなたのいない生活』

二人はしばらく黙って、お互いを見つめあっていた。ジェイルにとっても、クレアとの別れはとても苦しかった。胸の奥から突き上げてくる思いをぐっところえた。

二人の眼には悲哀の色が浮かんでいた。

クレアは口を開くことができなかった。何か、何か一言でも喋ったりしたら、それが涙の言葉になってしまいそうで……

やがて、ジャイルがゆっくりと口を開いた。

『僕も堪えられないよ、クレア。君がいない生活なんて、とても……』

クレアは彼の声色が震えているのに気付き、はっと顔を上げた。

ジェイルは泣いていた。『やだ、そんな、泣いて……』

クレアは込み上げてくるものを止められずに、言葉を止めてしまっ

た。そしてジェルに飛び付いて思い切り泣いた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6143b/>

---

王子の涙

2011年1月9日15時12分発行